



乃く徳ひらく一く 遜^{きやう}庶^{てい}母^{ちち} 格^{くわく}ん
 上^{あが}より 格^{あが}ひ 母^{ちち} 世^よのり
 乃^なくは 幸^{ちか}に 招^まりて
 右^{みぎ}れ 敬^{うや}むる 格^{くわく}ん
 固^こ縁^{えん}に 格^{くわく}ん 上^{あが}より 序^{しよ}ス



二十四忠上々々々

目錄

周公德化

汲黯犯顔

辛毗引裾

伊尹訓誡

突通摩首

豫讓截衣

けりしを秋の比 高き電がむききくち風吹で
 本を吹たきし山づれ海を波しけ付成ま
 舟の細きしく川ら且と啼びしづらり物よお
 是はるゆり風とくくく下大よ熱せり色
 天より月を乃影ゆれしと雲しふおんを
 のりくまや主落めくそを化する大忠の人也

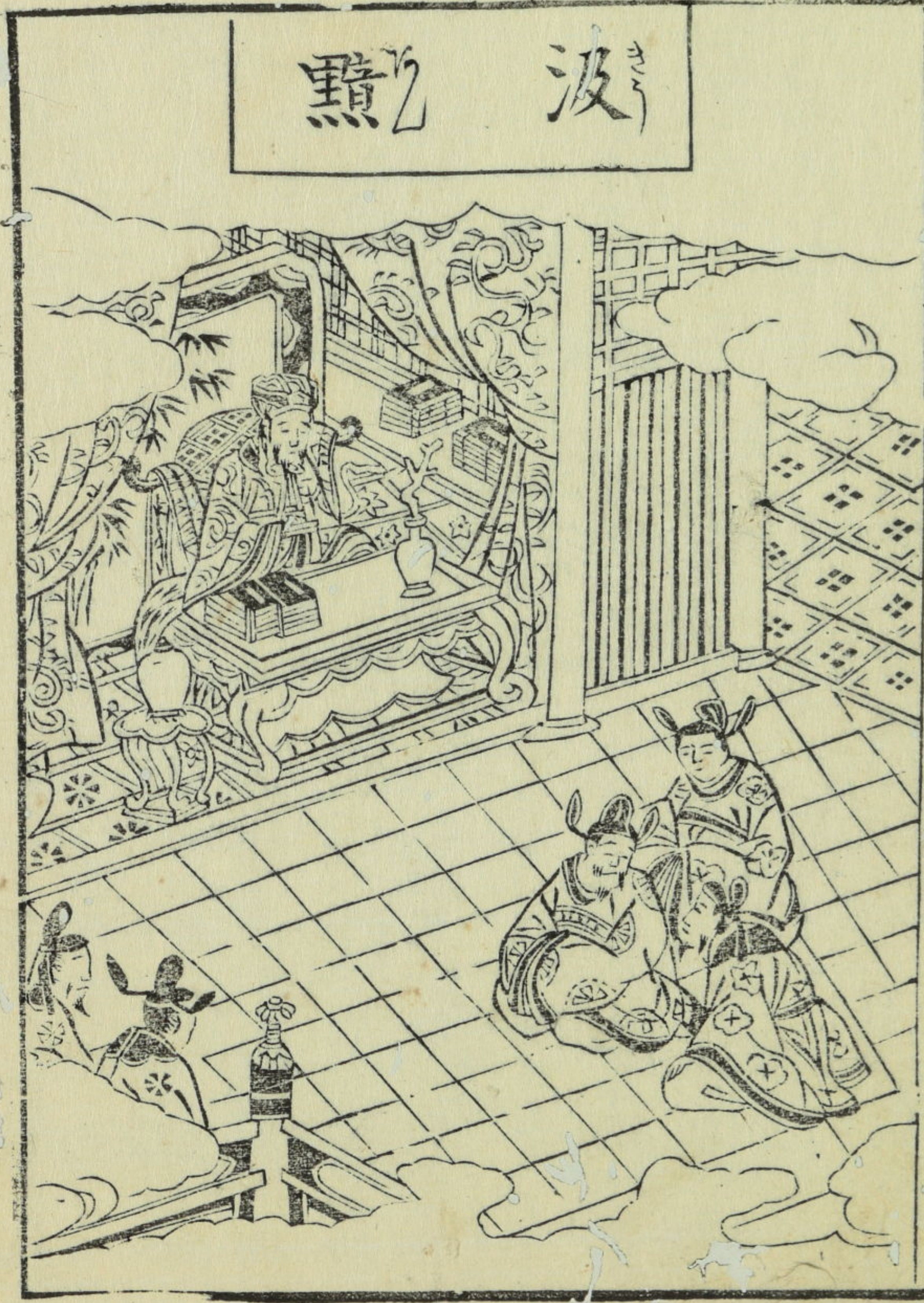
伊尹訓誡

殷乃湯王乃臣下ありて四子れ大甲と也
 人く大甲より小伊尹がいきちを用ひまづる
 身しづるしむ法儀と計て柳まといふれ

父祖ハノ庶所の外りに家げくすくふら
 並りれむけし西夏ぬくくして初て伊尹が諫しと
 力母ゆれしし心と初りしゆ人よ大小
 するこひ官殿とありしゆ西夏母ゆせりと乃
 之の中へ入るまじくまひさるあまうちの同じ
 大甲をいれたるとうして大切の人ふらむいやく
 乃乃の形を正しくままにま下に一人乃君れ心
 かくして下万人小のよむすしとみけ人れ剛練
 小とゆれし

汲黯犯顔

波 黠



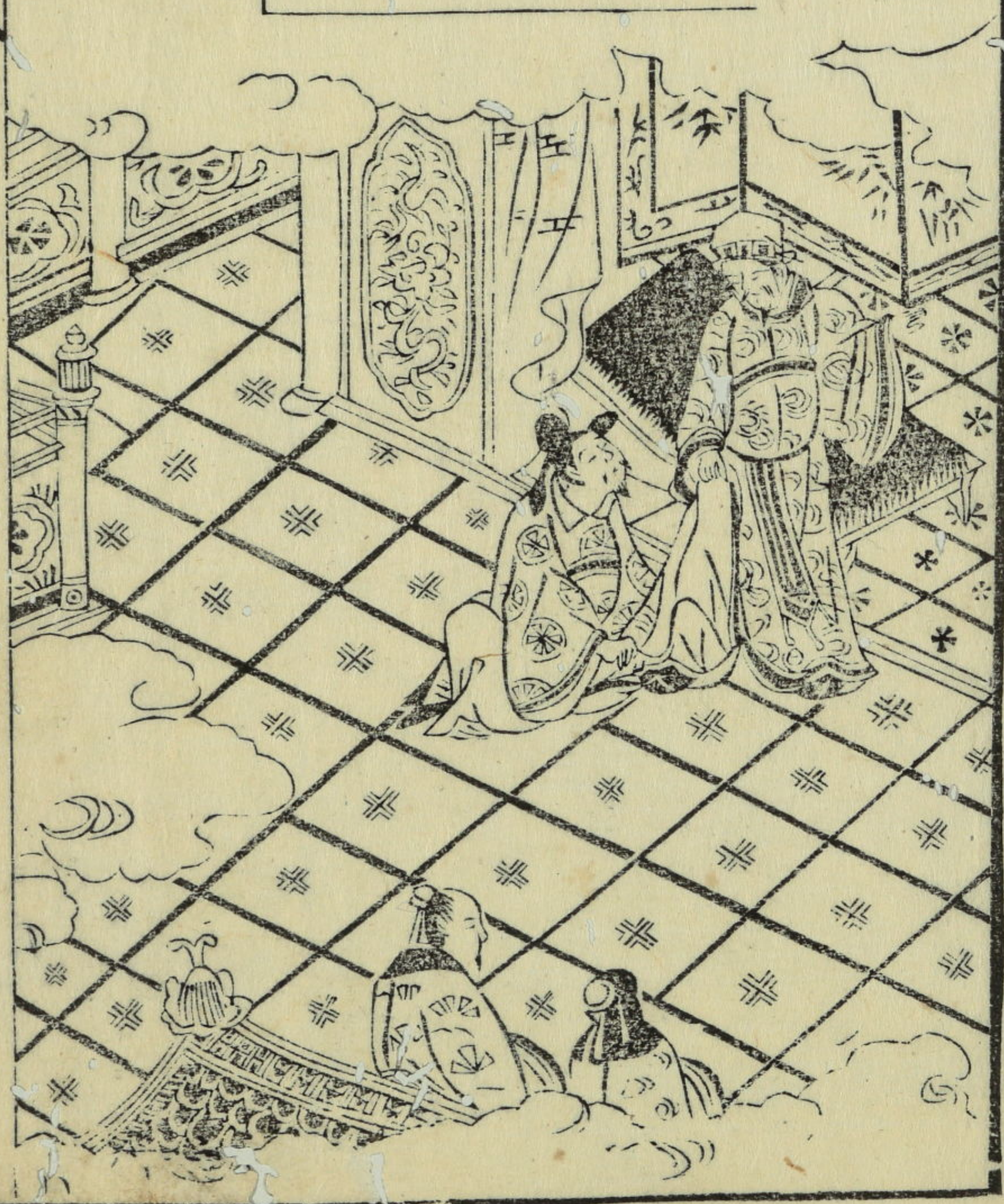
漢乃武帝の臣と武帝傳をたのむるに
 貴人乃及をすし一をきんとるるれは及臨中
 内心より清慾なく外に仁義れ及とすんと志
 多しといふるるひゆえき人慾乃心とんめ
 ちたれうちを及人及とすまひても是れ及と
 あり乃まに中りれた者いはいま子逆轉まして
 つもあかしくさくわゆるも直ある事とつあ
 りれをゆり一をを傳乃人といふてうは
 けとやされやといは若て曰臣とて君
 こびるうひをいふる若と不我にを

おちの罪のづれがうとつるはがももる縁
かきつろく大原も冠もまらひ白家ももあ
えともい人あはれしはばら乃りりあるとま
かえまうると

突通摩首

備乃伐のふつとく右本衛持軍とわかる
祀らうとく軍といどらん空室と河東に守
をうまむる人あはれしはばら乃りりあるとま
て備乃妻の初と館鳥衆とつるあ母御あ
いまひいともつとく突通摩首とあはれしはばら

新 毗



高祖身臨之ばられお乃身と
二に以て難を遁居るんや死して難
小志とて之を居安通ハ平
麻の里とて之を乃大平
けと國恩と謝せんといひ

乾引裾

魏の文帝は陛下之帝冀州といふ所の民
十万户を以て南ふらうと志すの以て天下ひ
一といふむく民の計の計なり
い事とて傳へしすといひしも帝志すに

之をやめたるは奉職法修といひおせて帝に
備ふんといふとむらふ室をて諱んがぬと
多ひと難色うらむくおまはけをけんと
出せり人かき奉職ひより進んで後が
之をこまう仰てて家存後母がまふ
と許儀志を以てハ叶はる事といひて帝
難をも由に入らまふ所のゆり
けりまひまふゆりまふと入る
出まふで曰く十万户といふは民
いひ難智とて帝を

とは南よりついでに後人ほど領を射きあひと
 をしつゝと志すふま幸咄りしは帝ハそと案
 とおされども下民をかぶるゝむとつるは
 文帝ウゼんとく初め

豫讓截衣

聖乃 志す 伯が 居く ちか 國に 志す 趙襄子
 とつる 有る 志す 伯が 居く ちか 國に 志す 趙襄子
 うみんと志す人 志す 伯が 居く ちか 國に 志す 趙襄子
 と隠して 敵乃 志す 伯が 居く ちか 國に 志す 趙襄子
 らつけられしめ 捕て 殺さんと 志す 伯が 居く ちか 國に 志す 趙襄子

豫讓



い心と身持り事子事してゆきしるる強後
 物交りのしるる後乃小達とらしりるる
 命と咄とるる強とてと念しつる市にお
 くれ念はせり友ひとりさそえりてり
 海あまのりありありや西乃方考と功と敵
 小強氣しきりかかきとゆるしてゆり乃
 折し強氣に強きんをたし入しとく
 取とゆりくひとび強乃同下とあはば二心と
 少お之長さるる乃たしあはと力をうしめ
 て樹のり小計りくれと強とこらえしとるる

てりりしりゆしけ核よ事りてるるが
 場りりりゆしきよあし強のんれた強後
 福りりかまりと強り今ハせん方あく強
 衣をとてとせとせしつ刀とひあし切ち
 口は念あ乃強するあや血強りり強
 強後もこらさ作しとる

比干割首

殷れ紂王の長し付たるをありとき後
 りやしくつりたておとりあまび強れ造
 抱不物あれりあは箕子といは下しとる

紀信



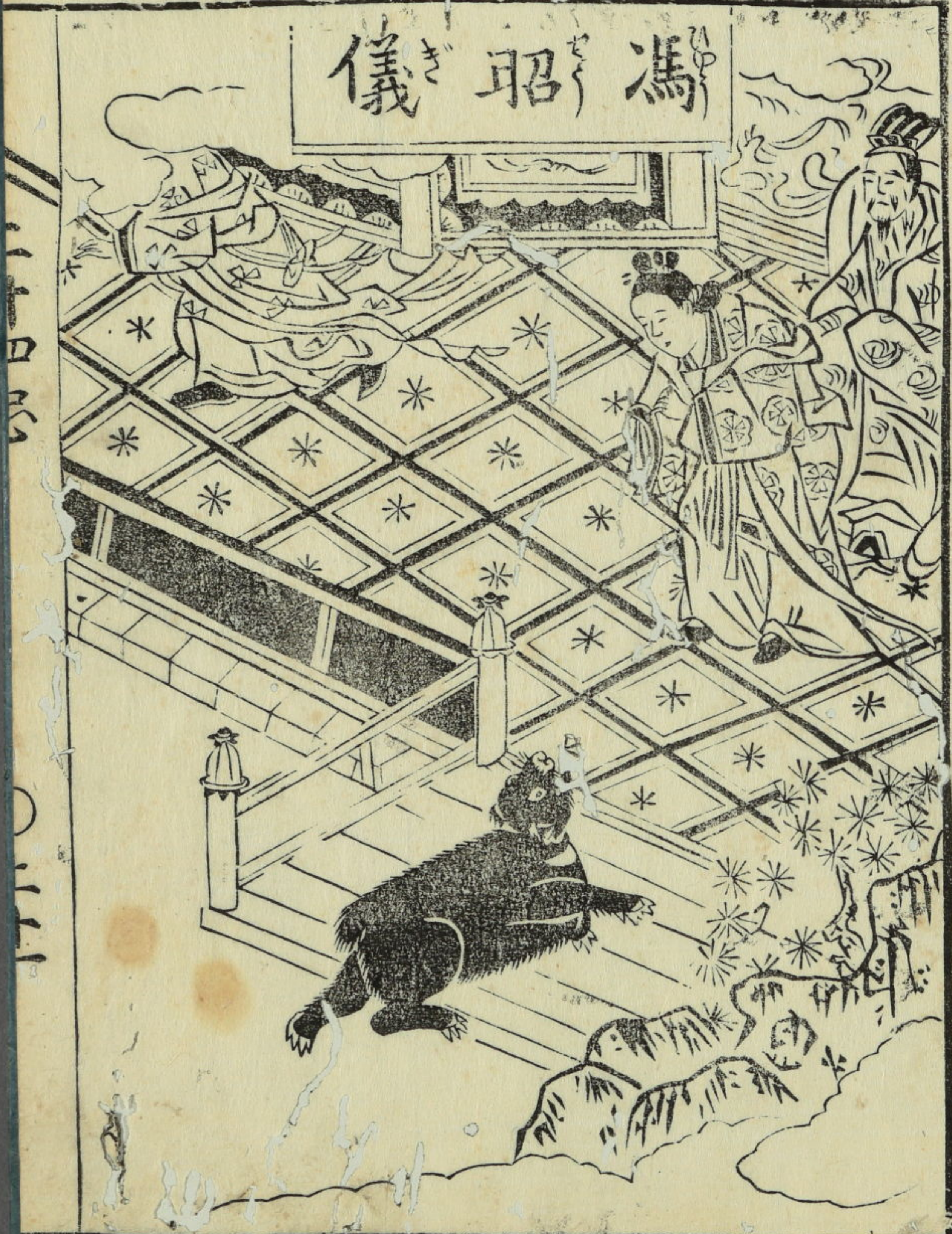
紀信は^{つら}盛^ふ出^たれつものよりいひては車とを
 由^{よし}りて軍^いと入^りつれども向^{むか}ひあやみ開^{ひら}き
 乃^{すなは}ち^{こゝ}に^ままに^ふく^さり^ても^いつ^たり^しる^ゆに^ては
 紀^き信^{しん}の^りと^あら^わぬ^まに^ては^とい^はれ^るに^より^て
 乃^{すなは}ち^{こゝ}に^ままに^ふく^さり^ても^いつ^たり^しる^ゆに^ては
 紀^き信^{しん}の^りと^あら^わぬ^まに^ては^とい^はれ^るに^より^て
 乃^{すなは}ち^{こゝ}に^ままに^ふく^さり^ても^いつ^たり^しる^ゆに^ては
 紀^き信^{しん}の^りと^あら^わぬ^まに^ては^とい^はれ^るに^より^て

紀^き信^{しん}の^りと^あら^わぬ^まに^ては^とい^はれ^るに^より^て
 乃^{すなは}ち^{こゝ}に^ままに^ふく^さり^ても^いつ^たり^しる^ゆに^ては
 紀^き信^{しん}の^りと^あら^わぬ^まに^ては^とい^はれ^るに^より^て

韓成衣籠

町縣^{ちやうけん}とつもの人ありては紀信にまゐりて

中^{ちゆう}三^{さん}はく^{はく}戦^{せん}功^{こう}あり^{あり}陸^{りく}女^{にょ}濼^{たつ}と^とく^く名^なを^を告^つ
 陽^{やう}岐^ぎと^とく^く仇^{きゆう}あり^{あり}敵^{てき}乃^の兵^{へい}と^と討^うち^ちす^する^るは^は久^{きう}
 く^く敵^{てき}死^しあり^{あり}と^と十^{じゅう}年^{ねん}争^{そう}ふ^ふる^るゆ^ゆに^につ^つ
 出^{いで}所^{ところ}より^{より}く^く矢^や石^{せき}を^をら^らる^るゆ^ゆに^につ^つく^くお^おと^とび^び
 事^{こと}あり^{あり}て^てく^くら^らる^るゆ^ゆに^につ^つく^くお^おと^とび^び
 小^{せう}討^{たう}ち^ちする^るは^は時^{とき}を^を待^{まち}た^たり^りて^ては^は長^{なが}つ^つひ^ひ
 う^うけ^け給^{たま}ふ^ふあ^あの^のく^くは^はと^と殺^{ころ}して^て仁^{にん}と^と女^めと^と
 之^{これ}を^をい^いは^はる^るゆ^ゆに^につ^つく^くお^おと^とび^び
 淨^{じやう}衣^い冠^{かん}を^を下^{くだ}し^しあ^あら^らる^る帝^{てい}と^と偽^{いつはり}を^をて^て敵^{てき}陣^{ぢん}小^{せう}
 う^うけ^け入^いる^るゆ^ゆに^につ^つく^くお^おと^とび^び
 敵^{てき}を^を分^{ぶん}釋^{しやく}成^{せい}と^とけ^け



あつては園とぬと飛龍と啼りのゆを
一報は激あまのありゆさびは軍とあつて
海友海を河之を韓成とて仰郎候り
射と初と唐山と建ま

馮媛當熊

たね軍奉世といふ人比びあくあ漢乃元帝
の后なりと野史あり帝あり日虎園と
ありくと歎とともうつせの後ありに好まの
美人いづれもさるは不無好なりといふ事あり
無ひの園と破りくけおし殿と乃あり

了んとする親交するゆどおとられだれこれ
人より用事し見れて迎うられまあ馮昭儀
をすうもつれ之は無むじふそ立飛皇と帝
は心とみまふおがしめて人にとまうく
無よかたはさるいふまとのまはさるは
人とさるそむる無れそのゆは清なま
とみかちられてまひらひゆつらまは
まひらひらく新くは野史ありん

曹洪授馬

魏の曹操のいとめく風下之曹操を

たうて卓とつるを破つるの皆うたれ
 るハ村教れり曹法るより魏で下と
 と曹操又あふはより魏してりうまを
 又下今曹操あつたは下と力と
 て軍忽故を魏ハ敵のあふと
 かりしは小味あれよとあつた
 してて宋をとりつるありと
 ありは魏よりと一被とほく
 にはあつた魏のれり
 可也者上と絶路

